

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しまう

木を使おう

三重の林業



第1回 みえチェーンソー技術競技大会
～日頃の現場業務で培ったチェーンソーの操作技術を競い合いました～(次号掲載予定)

2015年11月
No. 389

目

次

森 林 政 策	平成26年度災害に強い森林づくり推進事業の成果について	2
森 林 政 策	木育シンポジウム「はじめよう、ひろげよう、みえのもくいく」	3
寄 稿	間伐面積の動向(間伐対策始まり35年)	4
県 民 税 特 集	親子塾の開催と木材利用の促進【津市】	7
県 民 税 特 集	「尾鷲ヒノキ」を通じた木と人とのふれあい【尾鷲市】	8
話題を追って	第49回全国建具展示会、大臣賞を北勢で2名が受賞!	9
話題を追って	平成27年度近畿ブロック林業グループコンクールで発表しました。	10
団体情報提供	三重県林業技術普及協会総会を開催しました	12
団体情報提供	みえの森林ツアーを開催しました	13
連 載	頑張ってます! ～地元熊野で頑張っています～	14
連 載	この人に聞く ～第59回・大紀森林組合 西 晋矢さん・村田拓也さん～	15
技 術 情 報	新植地における移動組立式囲い罫を用いたニホンジカの捕獲試験	17
木 材 市 況	県内木材市場市況の概況(10月)	19
行 事 予 定	森林・林業関係行事予定表	19

平成26年度災害に強い森林づくり推進事業の成果について

三重県農林水産部治山林道課

近年の自然災害が頻発する状況を踏まえ「災害に強い森林づくり」のために、県独自の取組として、流木や土砂を出さない森林をつくり、災害を未然に防ぐ新たな事業を平成26年度からスタートしました。

今回は、平成26年度の事業実績の一部を紹介します。

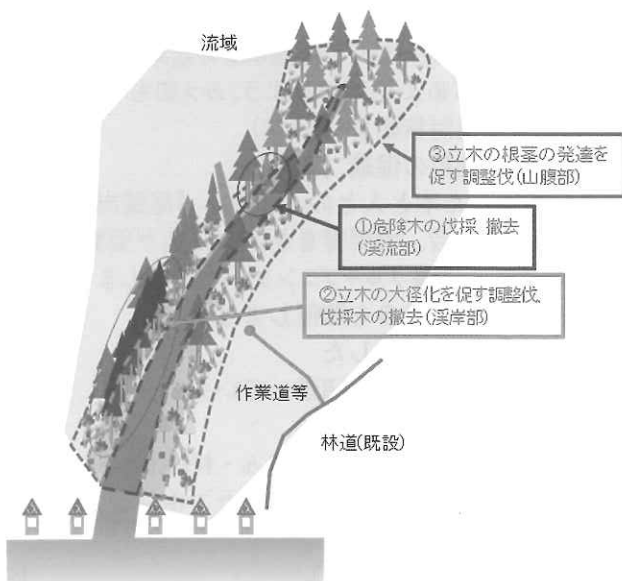
1 災害に強い森林づくり

当該事業には、崩壊土砂流出危険地区内の森林において土砂や流木の流出に緩衝効果を持たせるための森林整備を行う「災害緩衝林整備事業」と、同地区流域に異常堆積している土砂や流木を除去する「土砂・流木緊急除去事業」の2つの事業がありますが、今回は、「災害緩衝林整備事業」について紹介します。

2 災害緩衝林整備事業

この事業では、以下の森林づくりを目指します。

- ①溪流部では、溪流内における危険木を伐採して現場外へ搬出する
- ②溪岸部では、過密な森林を調整伐によって整備し、樹木を大径化することにより上流から流れてくる土砂や流木の流下を緩衝する
- ③山腹部では、過密な森林を調整伐によって整備し、根の堅束力を強めることにより、倒木や土砂等の溪流への流入・流出を抑制する



災害緩衝林整備事業のイメージ図

(1) 平成26年度事業実績

平成26年度は、11市町25箇所を実施し、事業費は300,333千円でした。

(2) 代表的な整備箇所

施工地：南牟婁郡紀宝町大字桐原字大地山地内

整備内容：①危険木除去（溪流）体積227m³

②調整伐（溪岸）面積0.44ha

③調整伐（山腹）面積5.95ha

この箇所は、平成23年の紀伊半島大水害によって、整備前の写真のとおり被害を受け、今まで放置されていました。

今回、この事業で被害木などの危険木を除去したことにより、整備後の写真のように、流木の発生が抑制でき、下流の県民の安全が確保されました。



紀宝町（大地山）整備前



紀宝町（大地山）整備後

木育シンポジウム「はじめよう、ひろげよう、みえのもくいく」

～三重県の木育のキックオフとなるイベントを開催しました～

みどり共生推進課 水上知之

平成26年4月より導入された「みえ森と緑の県民税」を活用した木育の取組が県内各地で始まっています。県においても、今年度より木育を進めていくためのキックオフとなるシンポジウムを開催しました。

◆木育とは？

木育（もくいく）とは、子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動を指します。（平成26年度森林・林業白書より）

具体的には、未就学児等には木製玩具や遊具などを使った遊び、小・中学校では木工、高校生以上では木製品の選択ができるような取組を実施し、将来、木製品の良さを伝えられる人材の育成を行います。北海道で始まった木育の取組は、平成27年度時点では、全国26都道府県で進められています。

◆県内での木育の取組

平成26年に導入された「みえ森と緑の県民税」を活用した取組が県内で始まっています。伊賀市ウッドスタート事業では、「木育」と「食育」を関連させた事業として、木製（伊賀産材）のスプーンとお箸をプレゼントしています。また、朝日町では町内に設置されている児童館に木製玩具を配置しました。尾鷲市では、市内小学校に市産材で製作した机・椅子を親子で組み立て、快適な学習環境をつくりました。

◆木育シンポジウム

8月30日（日）、県においても今年度より木育の取組を始めるため、津市のメッセウイング・みえにおいて、キックオフとなるシンポジウム「はじめよう、ひろげよう、みえのもくいく」を開催しました。コーディネーターとして、NPO法人日本グッド・トイ委員会事務局長であり、東京おもちゃ美術館の副館長でもある馬場清氏を、パネリストとして川畑理子氏（株式会社グリーンマム代表）、栗山順子氏（元いなべ市立笠間保育園園長）、油田陽一朗氏（家具工房NEWFOREST 代表）をお迎えし、県農林水産部の吉仲部長を含めた4名でパネルディスカッ

ションを行いました。

馬場氏より全国の木育の取組紹介が行われたのち、川畑氏による木製玩具製作などの事例紹介、栗山氏によるいなべ市立笠間保育園建設や運営の経緯、油田氏による家具製作および木に対しての熱い思い、そして吉仲部長による三重県の木育の取組について発表が行われました。

1時間半という短い時間にも関わらず、コーディネーターやパネリストによる木育への思いが語られ、100名を超える参加者のアンケートでは、木育の取組を進めてほしいという声をたくさん頂戴しました。



◆ミエトイ発進！ 三重の木のおもちゃ大集合

同時に開催された「三重の木でつくる暮らし展2015」の会場内の木育コーナーにおいて、三重県在住の作家が製作した木のおもちゃの展示を行いました。乳児用玩具や三重の伝統工芸「伊勢玩具」、大きなものでは滑り台やジャングルジムなど、15の作家が丹精込めて製作した59の作品。来場者に触れて、そして体験していただきました。中には、おもちゃから離れがたい子どももみえて、木のおもちゃの持つ力を感じることができました。



このシンポジウムを契機に、「みえのもくいく」が始まり、そして広がっていきます！

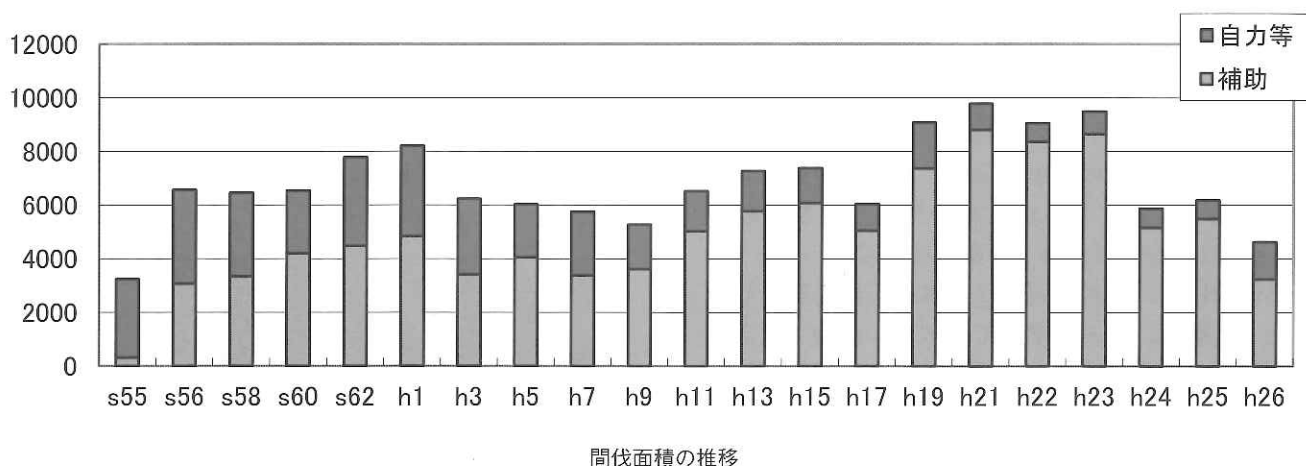
統計からみる
三重の林業①

間伐面積の動向（間伐対策始まり35年）

～補助事業依存の間伐実施！～

森林協会顧問 佐々木 太

◇現役の時、本県の林業生産等の統計数値を書き留めたノート等の統計資料があり、廃棄を考えましたが、時間をもてあまして昨今、ぼちぼち整理することにし、昭和30年代から現在までの「三重県林業統計」を編集しています。つきましては、整理のできた項目から分析をし、「統計からみる三重の林業」として、随時「三重の林業」に投稿を計画しましたので、第1回として「間伐面積」を報告します。



間伐面積の推移

◆昭和56年、間伐促進総合対策始まる

間伐実施面積の統計上の始まりは、昭和56年の間伐促進総合対策事業が発足してからで、昭和55年までは造林補助事業実績による除間伐面積と伐採照査などによる推定面積であり、手元資料では次の通りであります。（なお、昭和43年は、間伐対象森林の18%が間伐実施と林政課資料にあります。）

S40年	2,800ha
S43年	9,645
S45年	3,100
S49年	2,674（うち補助 76ha）
S50年	3,254（69ha）
S51年	4,064（54ha）
S52年	3,235（67ha）
S53年	3,045（109ha）
S54年	3,254（190ha）
S55年	3,241（313ha）

戦後、植栽された人工林の約3割が間伐実施対象林齢に達し、間伐実施の重要性から昭和56年、林野庁は、“間伐対策室”を設置し、新しく「間伐促進総合対策事業」が発足し、この年、間伐促進事業での2,750haをふくむ補助事業で3,071ha

の実績をあげ、前年の倍増の6,568haが実施されました。

この対策により、昭和56年から59年まで間伐実施面積が、6千ha台で推移し、この新規事業により間伐が急速に進展しました。

昭和60年から、「新間伐総合対策・間伐等林業活性化緊急対策事業」が実施され、平成元年まで約8千ha前後で推移しました。

その後、「流域総合間伐対策事業」「水土保持緊急間伐対策事業」等対策が打ち出されるが平成2年から10年までは5～6千ha台にとどまり、平成9年には5,296haまで減少します。

◆平成11年、間伐対策の県単事業（三重県型デカップリング事業等）創設

県単事業による広葉樹との複層林化を目指す間伐対策として平成11年、「森林適正管理支援事業（三重県型デカップリング）」が創設され、平成12年から国の「緊急間伐5か年対策」等により、平成12年に7,558haとなり7千ha台を回復します。

さらに、県単事業として平成13年からは全国初の環境林対策「森林環境創造事業」が創設され、間伐が進むこととなりました。

その後、平成15年からは、地球温暖化防止の二酸化炭素森林吸収源対策として「森林再生CO₂吸収量確保対策事業」、緊急雇用対策としての「緊急雇用特別基金事業（緑の雇用事業）」の間伐事業が打ち出されました。

また、県単事業としても、平成18年「森林吸収源整備緊急間伐事業」を創設し、平成18年まで7千ha台を維持しました。

◆平成19年、県単事業の強化等により 間伐面積9,000ha台に増加

平成19年、県は、県単事業として「高齢林整備緊急間伐事業」（予算額1億27百万円）、「環境林整備治山事業（予算額1億82百万円）」を新設し、間伐対策の強化を図り、前年比約1,600ha増の9,074haに達しました。

平成20年、「間伐促進特別措置法」が制定され、国補事業「間伐対策事業」（H19…74百万円→H20…2億8百万円）が強化されました。

平成21年には、緊急雇用経済対策としての間伐事業「緊急間伐促進支援事業」、「森林整備加速化・林業再生基金事業」が新設されたことなどから平成23年まで9千ha台と間伐が促進されました。（県は、特に、平成20年以降、県単事業予算を大幅に増加させ、平成20年～24年度は年間5～6億円余の予算措置をし、間伐対策に重点を置きました。）

◆平成24年、切り捨て間伐補助対象外により大幅減少！ 間伐対策の分岐点！

平成24年、「林業経営計画」制度がスタートし、これに伴い、切り捨て間伐が補助対象外になったこと等から、間伐実施面積が前年の9,490haから5,870haとなり3,620haの大幅な減少（約40%減）となりました。（例えば「森林整備加速化・林業再生基金事業」の実績は、3,613ha→399ha）

平成25年は6,183haと6千ha台を回復しましたが、平成26年には、4,623haと大幅に減少し、間伐対策の大きな分岐点にきています。（平成24年以降新たな間伐対策が講じられず間伐実施

面積の減少に繋がっています。バイオマス需要が高まる中、主伐対策と併せて手遅れ林分に対する間伐対策の予算を確保し、素材生産量の増加に繋げるための政策が必要ではないでしょうか。）

◆年々高まる補助事業依存！

昭和55年以前は、造林事業による補助制度であり補助事業の全体に占める割合は1割程度であったが、昭和56年間伐対策が始まり、補助事業に対する割合が一気に約5割近くまで高まりました。

その後、各種間伐補助事業が展開され徐々に補助割合が高まり、平成20年には99%に達し、間伐事業は補助事業に依存してきました。

しかし、平成24年切り捨て間伐の補助対象外により補助依存度は低下をし、平成26年には70%となり、平成8年頃の水準になりました。

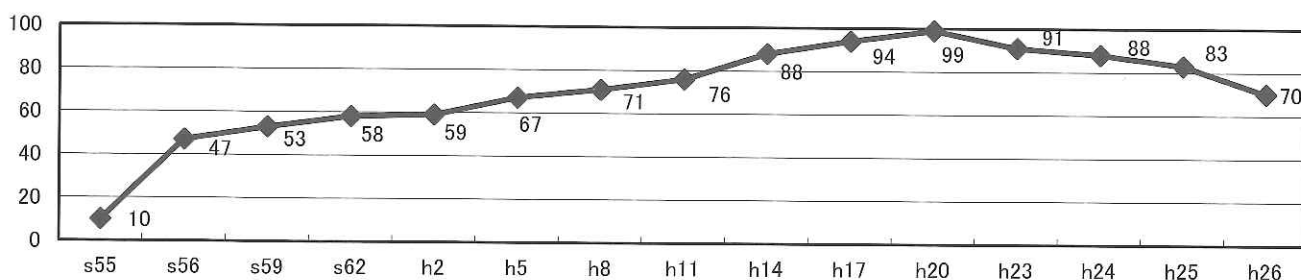
◆間伐材利用は低位（約2割）！

間伐材利用は、間伐対策が始まった昭和50年代後半は、約50%を越える利用がありましたが、（例えば昭和59年は間伐材積86千m³（素材換算）のうち足場丸太等を中心に45千m³が、利用され、利用率は52%）その後、足場丸太・杭の需要減、価格下落による不採算などにより年々低下を続け平成21年には7%まで落ち込みました。その後、切り捨て間伐が補助対象外になったこと、合板、チップなど需要増で平成26年には約20%（間伐材積32万m³）まで利用率が上がりましたが、依然、低位にあります。

◆約35年間で間伐面積23万5千ha！ 人工林面積を上回るが？

昭和56年以降平成25年までの間伐累計面積は235,397haで、人工林（218千ha）の約1.1回は間伐を実施したことになりますが、未だ未間伐の放置林は数多く存在し、未間伐放置林の解消が急務であります。

※数値等については、私物ノートからのもので間違いがあるかもしれません。ご容赦ください。



間伐実施面積の補助事業割合の推移（単位：%）

間伐面積と森林整備公共予算の推移

年	間伐面積 (ha)				間伐材積 (万m ³)	利用率 (%)	森林整備予算(千円)			
		補助	融資	自力等			公共予算	公共・国補	公共・県単	非公共
s35	?						105,383			—
s40	2,800						115,702			—
s41	?						113,953			—
s42	?						?			—
s43	9,645						?			—
s44	?						?			—
s45	3,100						128,501			—
s46	?						171,243			—
s47	?						162,201			—
s48	?		218				191,800	188,800	3,000	—
s49	2,674	76	107	2,491			200,839	198,739	2,100	—
s50	3,254	69	?	?			141,656	139,656	2,000	—
s51	4,064	54	231	3,779			153,824	150,824	3,000	—
s52	3,235	67	546	2,626			169,900	165,900	4,000	—
s53	3,045	109	865	2,071			202,089	195,089	7,000	—
s54	3,254	190	965	2,099			228,429	221,429	7,000	—
s55	3,241	313	918	2,010			266,800	259,800	7,000	間伐促進 総合対策
s56	6,568	3,071	920	2,577	12	50	233,280	224,280	9,000	104,184
s57	7,276	3,253	723	3,299	15	53	234,000	225,000	9,000	237,562
s58	6,458	3,346	519	2,403	11	56	224,000	215,000	9,000	214,295
s59	6,748	3,544	713	2,491	12	52	247,522	235,522	12,000	202,342
s60	6,533	4,197	347	1,989	10	58	244,870	232,870	12,000	205,894
s61	7,986	5,556	296	2,134	13	57	247,765	232,265	15,500	187,831
s62	7,782	4,474	1,257	2,051	12	52	261,530	244,530	17,000	394,730
s63	8,366	4,620	1,419	2,327	12	51	339,161	320,161	19,000	395,964
h1	8,197	4,832	1,238	2,128	13	53	441,490	419,490	22,000	343,146
h2	6,695	3,973	1,002	1,724	11	55	494,940	469,940	25,000	395,131
h3	6,233	3,414	1,167	1,667	11	53	491,155	463,155	28,000	358,041
h4	6,150	3,820	620	1,740	10	51	490,402	459,402	31,000	270,709
h5	6,021	4,046	209	1,766	9	47	640,321	597,321	43,000	296,875
h6	5,076	2,318	1,130	1,622	9	44	831,560	778,560	53,000	300,745
h7	5,746	3,381	823	1,542	11	42	823,698	726,698	96,000	215,538
h8	5,479	3,874	203	1,403	11	38	839,443	740,705	98,738	283,805
h9	5,269	3,611	85	1,573	11	40	1,125,137	951,155	173,982	—
h10	6,807	4,676	70	2,061	12	37	956,556	817,962	138,594	—
h11	6,518	4,973	91	1,454	11	23	922,416	812,416	110,000	—
h12	7,558	6,184	52	1,322	16	20	900,651	812,651	88,000	—
h13	7,268	6,573	14	681	29	12	877,611	751,611	126,000	—
h14	7,742	6,825	1	916	32	13	1,212,774	697,257	515,517	—
h15	7,379	6,646	16	717	26	12	960,384	605,666	354,718	—
h16	7,249	6,853	0	396	21	14	945,380	636,800	308,580	—
h17	6,043	5,667	0	376	16	20	901,545	454,767	446,778	—
h18	7,452	6,455	0	997	36	11	863,678	547,532	316,146	—
h19	9,074	7,307	65	1,702	48	8	1,090,745	781,245	309,500	—
h20	9,267	9,183	0	847	53	10	987,942	410,544	577,398	—
h21	9,781	8,804	0	977	56	7	872,245	362,802	509,443	—
h22	9,055	8,359	0	696	56	11	822,226	221,158	661,068	—
h23	9,490	8,648	0	842	61	12	869,106	301,819	507,287	—
h24	5,870	5,163	0	707	37	24	743,354	304,208	439,146	—
h25	6,183	5,157	0	1,026	38	21	555,673	218,793	336,880	—
h26	4,623	3,230	0	1,393	32	20	573,597	328,250	245,347	—
h27							414,229	274,818	139,411	—

* 昭和56年から間伐促進総合対策事業、昭和60年から新聞伐促進総合対策等々非公共間伐関連予算

* 平成9年から非公共の間伐実施事業が公共予算へ移行

親子塾の開催と木材利用の促進【津市】

津市農林水産部林業振興室 宇井 宏 幸

◆津市の森林

本市の森林面積は、市総面積711km²の59.1%にあたる420km²を占めています。特に、芸濃地域から美杉地域に続く西部山間地域においては、古くから造林に取り組み、スギ、ヒノキ等の人工林率が82%を超える高い率を示しています。

◆夏休み森と緑の親子塾 (森を育む人づくり)

子供たちに森林や木材にふれあう機会を提供する場として、平成26年8月に「夏休み森と緑の親子塾」を開催しました。市内に在住・在学の小学生と保護者を対象に募集したところ、23組60名に参加を頂きました。本事業では、木工細工と森林体験を行いました。

木工細工では、本立て、プランター、マガジンラックの中から作りたいものを選び、美杉木材協同組合の方々に指導して頂きながら、お手本の木工品を参考に作製していきました。子供たちは一生懸命に釘を打っていました。



木工細工の様子

森林体験では実際に森林に入る前に、なぜ間伐が必要なのか紙芝居で説明しました。興味を持ってくれた子供は、説明後にも森林に対して色々聞いてきました。チェーンソーによる伐倒の見学の際には大きな木が倒れてくる迫力に歓声が湧きました。その後伐り倒した木の皮むきを行いました。保護者の方の手を借りながら作業する子供の微笑ましい姿も見られました。この親子塾で、木や森林を身近に感じていただけたかと思います。



森林体験の様子

◆津市木材利用促進事業 (木の薫る空間づくり)

本市では、市内における地域産材等の利用拡大を図るため、本市内で建築される個人住宅や公共的施設を対象に、地域産材及び県産材を主要部材として使用し、対象要件を満たした場合には主要部材に要する費用をその対象として補助金を交付しています。

○補助金額

個人住宅……300,000円
公共的施設…500,000円



補助金を活用した個人住宅

住宅や公共施設の木造・木質化を図り、それをきっかけにして、木造・木質化による癒し効果の普及を図ると共に、地域産材を利用することで津市林業への理解を深めることとしています。

「尾鷲ヒノキ」を通じた木と人とのふれあい【尾鷲市】

～「みえ森と緑の県民税市町交付金」の活用事例について～

尾鷲市木のまち推進課農林振興係 松 永 理 寛

◆はじめに

尾鷲市は、総面積の90%が山林で覆われ、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されており、海と森林に囲まれた自然豊かなまちです。

「尾鷲ヒノキ」として知られる当地域においても、製品や住宅の多様化により、子どもたちが木とふれあう機会が減少したため、森林への関心が薄れてきておりました。

そこで、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、子どもたちに森林のもつ公益的機能の重要性和尾鷲の林業を知ってもらうために、平成26年度では、2つの事業を実施しました。

◆尾鷲ヒノキ植樹体験森林塾

尾鷲ヒノキ植樹体験森林塾では、市内の小学生を対象に尾鷲特有の密植の方法によるヒノキの植樹を体験し、この植樹を体験することで、森林にふれあう場を提供し、森林と人との関わりについて学ぶ機会を設けることを目的としました。

この森林塾の中で、子供たちがふれあうことの少なかった地元の特産品である「尾鷲ヒノキ」を身近に感じながら、森林のもつ公益的機能の役割を知ってもらい、併せて植樹から製品にいたるまでの尾鷲の林業について学ぶことで、次世代へと繋がる森林教育を実施しました。



植樹作業の様子

◆木とふれあう学校環境づくり事業

市内小学校に市産材で製作した机・椅子を配置し、木のぬくもりにふれあう機会を提供し、木のもつ温かみや香り、肌ざわりなどの木の良さを実感できる快適な学習環境をつくることで児童に安らぎや落ち着きなど癒しの効果をあたえ、また、児童の頃から木材にふれあう中で、森林や木材に関する知識を育んでいくことを目的としました。

この机・椅子の製作については、児童とPTA等と共同で実際に机・椅子を組み立ててもらうことによって、作る楽しさと木の良さや魅力を肌で感じてもらうと同時に、自らが組み立てたものを継続して使用することで、愛着を持ちモノを大切にしようとする心を養うことができ、森林や木材に関する知識を育むことで、森林への関心を深めてもらいました。



机・椅子の組立の様子

◆おわりに

今後も当市では、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した取組みにより、市民に森林のもつ公益的機能の役割を知っていただき、森林を守ることが地域を災害から守っていることへの重要性を理解していただけるような事業を実施していきたいと考えております。また、このような取組みを活用することで、今後の木材利用の推進や森林整備につなげていきたいと考えております。

第49回全国建具展示会、大臣賞を北勢で2名が受賞！

～(三重の職人魂が大健闘！)～

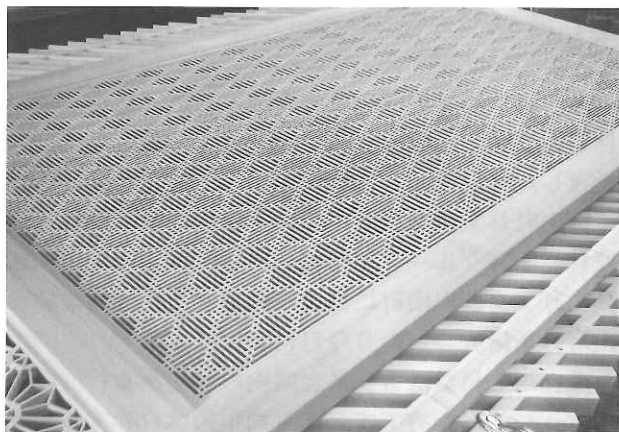
三重県四日市農林事務所 林業普及指導員 柳田 国男

本年7月、第49回全国建具展示会・全国建具フェア東京大会が開催され、三重県からの出品者は、5名もの方が入賞され大健闘されています。特に、北勢地域で2名の方が大臣賞を受賞されたので今回紹介いたします。

経済産業大臣賞を受賞された市野建具店(鈴鹿市)さんです。



受賞作品(硝子(アクリル)戸)と市野政光さん



斜めから見ると組子の配列により、放物線のラインが交差し、美しく表現されています。

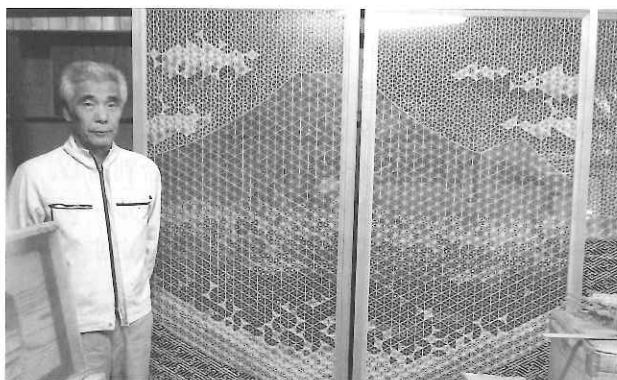
「今回は、このデザインが評価されたのではないかと思います。建具の仕事は、難しい注文が多く製作には苦勞しますが、自分でデザインして自分で作れることが最高にやりがいがあり、楽しいことです」と、市野さん。

次に、文部科学大臣賞を受賞された長野木工(いなべ市)さんです。



受賞作品(鈴鹿セブンマウンテン)

5か月間かけての大作。長野さんの作品は、自分で鈴鹿の山をスケッチして図案からオリジナルです。



過去の作品と長野政次さん。

「15歳から建具をやっています。子供の頃から物作りが好きで、絵も良く書いていました。自分のデザインをそのまま作品にするのが私の得意技なので、今回は、地元の自慢の山景をデザインしてみました。」と、長野さん。

◆第50回展示会は三重県で開催！

平成28年、節目の第50回建具展示会は、三重県で「三重県建具工業協同組合」の主催により開催されます。

平成28年6月17日(金)～19日(日)
メッセウイング・みえにて。

三重と全国の匠の技を見られる貴重な機会ですのでぜひご来場ください。

平成27年度近畿ブロック林業グループコンクールで発表しました ～津市白山町林業研究会の活動報告～

白山町林業研究会 会長 川 井 春 生

林業グループコンクールは、林業技術の向上及び林業経営の発展のため、自主活動により地域の振興・活性化に取り組んでいる林業研究グループの体験や成果を発表し、グループ相互の発展を図ることを目的としています。

◆グループコンクール

去る平成27年8月25日(火)～26日(水)にかけて、兵庫県播磨市で開催されました「平成27年度近畿ブロック林業グループコンクール」で、三重県の代表として白山町林業研究会が発表しましたので、その概要について報告します。

本コンクールは、近畿2府5県の持ち回りで毎年開催されており、本年度は兵庫県において総勢77名の参加があり盛大なコンクールとなりました。

初日は、各府県から選出された7グループが日頃の活動成果を披露しました。コンクールは15分間の発表時間で活動状況を発表し、取組状況、地域振興への波及効果等を4名の審査員が総合判断し、来年3月に東京で開催される「全国林業グループコンクール」へ出場する最優秀グループを決定するものです。

◆発表グループ及び内容

今回のコンクールにおいて、各7府県から選出された林業研究会から、主な近年の活動について発表されました。

- ①大阪府：特定非営利活動法人日本森林ボランティア協会「都市住民による雪害木処理作業について」
- ②滋賀県：甲賀愛林クラブ「山を元気に！ 町を元気に！ 美しい森づくりへの挑戦」
- ③京都府：舞鶴市林業研究グループ「森の循環と人の循環」～低迷する活動からの脱却～
- ④奈良県：吉野林業研究会「よしの木の駅プロジェクトの取り組み」
- ⑤三重県：白山町林業研究会「白山町林業研究会活動報告～森林整備と未利用間伐材利用促進のススメ」
- ⑥和歌山県：日高川町林業研究会「日高川林研から未来を担う子供たちへ」

- ⑦兵庫県：西播磨親林会「資源循環型林業を目指した確実な再造林と省力化の検討」

以上の発表から厳正な審査の結果、奈良県の「吉野林業研究会」が、「全国林業グループコンクール」に出場する最優秀賞を受賞しました。



◆白山町林業研究会の発表概要

白山町林業研究会は、津市白山町(旧白山町)内において活動している林業研究グループです。活動する白山町地域は市のほぼ中央部に位置し、総面積11千haのうち森林面積はおよそ8千haと75%を占めています。人工林率はおおよそ80%となっていますが、個々の所有森林面積は狭小であるうえ、林業従事者の高齢化と減少が進行し、地域の林業は低迷した状況が続いています。

白山町林業研究会は、昭和47年に設立された元取林業研究グループが母体となって、平成7年に活動エリアを旧白山町に拡大・発展する形で現在の白山町林業研究会となり今日に至っています。

現在の会員数は59名と県内の林研グループの中では比較的多い方ですが、平均年齢は68才と高齢化が進んでいます。

これまでは長く、小学生の環境教育や林業・木工教室、炭焼き、きのこ栽培教室などに取り組んできましたが、平成19年からは、森林境界の明確化や未整備森林の整備に取り組み、平成26年度からはさらに取組を発展させる形で間伐木や倒木などの林地残材の利活用を主な活動として「木の駅プロジェクト」を立ち上げ、活動の輪が広がりつつあります。

○森林境界確認の取り組み

森林境界の確認については、平成19年度から取組を開始し、現在では県林研グループ連絡協議会からハンディGPSを借りるなどして効率的に作業を進めています。

境界の明確化の手順としては、まず地域での説明会を開催し、続いて自治会役員と林研会員が明確化する団地の外周確認を行います。その後、改めて個人所有者への説明と現地確認の立ち会いを経て境界確認が済んだ箇所から地元の中勢森林組合にお願いして境界測量を行っていただきます。

以上の作業が完了した箇所から森林整備（間伐）へと繋げるために、県単独事業の森林環境創造事業などを実施する予定です。

スギ、ヒノキの人工林地については、森林所有者の集約化と森林経営計画樹立に協力するとともに、森林組合において搬出間伐や切り捨て間伐を進めるなど、現地の状況に応じた事業を活用して整備を進めています。

○広葉樹林の整備

また、現地の境界を確認した森林においては、平成25年度からは国の支援策である「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を活用し、過密化し公益的機能が低下している広葉樹林の整備活動への取組を開始しました。

まず、白山町林業研究会の佐田連合自治会に属する会員が構成員となって「佐田連合自治会共有林保全の会活動組織」を立ち上げました。

平成25年度の広葉樹林の整備面積は、1.0ha、平成26年度は2.2haの不良木の除・間伐などの森林整備を行い、平成27年度には2.3haの活動を予定するなど整備面積は年々拡大してきています。全国的に林研の活動資金が厳しい中、このような支援策は大変ありがたいと思っています。

○木の駅プロジェクト活動

平成26年10月からはNPO法人「もりずむ」と協力して、「木の駅プロジェクト」活動を開始し、森林整備により産出した間伐木等の有効活用に積極的に取り組んでいます。

木の駅プロジェクトを開始するに当たっては、まず、地域の方々を対象に出荷意向のアンケート調査を行いました。アンケート対象者の半数が70才以上の高齢者であり、自分で搬出するのが無理、体力が無いなど不安な声がありました。このように不安な声がある中、4割の方々が出荷すると回答されたため、活動に向けて勢いづいたところです。

平成26年10月25日の初めての集荷活動では約11m³、2回目には16m³、3回目には29m³、

4回目には31m³と回を重ねるたびに増加し、出荷者も当初5名でスタートしましたが、今では9名まで増えてきています。このように、山に放置される未利用木材がお金に替わることで、会員の森林整備に対する意欲が徐々に高まってきています。

NPO法人「もりずむ」では薪の需要先の開拓を進めており、9月からの本稼働では、地域通貨の取組に参画する地域の店舗や出荷者も更に増加すると期待しているところです。

「木の駅プロジェクト」の本格稼働に向けて、更に出荷者の増大と他地域の林業研究グループや活動団体との連携に取り組みたいと考えており、それに伴い若手会員の参入促進も積極的に行いたいと考えています。

また、活動が活発化することで、山での作業機会も増えることから、安全対策としてヘルメットやチャプスなど安全防具の着用についても徹底を図っていきたいと考えています。



最後になりましたが、将来山村地域を支える子ども達への森林環境教育は今後さらに必要になると考えていますので、三重県が制度化している「森のせんせい」に会員が登録し、これまでの経験を活かして、地域の森林・林業を支えるための活動により積極的に取り組みたいと考えています。

(おわり)



新刊のご紹介



空師・和氣邁が語る 特殊伐採の技術と心

和氣 邁 著 聞き手/杉山 要

A5判 128頁

定価1,944円(本体1,800円)

お申込は、三重県林業技術普及協会
(TEL 059-228-0924) まで

三重県林業技術普及協会総会を開催しました

三重県林業技術普及協会 向 田 恵 子

平成27年8月20日、三重県生涯学習センターにおいて代議員38名の出席のもと、第63回通常総会を開催しました。

総会では、西場会長のあいさつにつづき、来賓として三重県農林水産部森林・林業経営課前田課長よりご祝辞をいただき、議事に入りました。

今回の通常総会提出議案は、

- ・平成26年度事業報告並びに収支決算について
- ・平成27年度事業計画並びに収支予算について
- ・平成27年度会費の賦課徴収について
- ・代議員の定数について
- ・役員の改選について

の5議案でした。提出した議案はすべて原案通り可決承認されましたことをご報告します。

また、総会終了後、NPO法人活木活木森ネットワークの遠藤日雄理事長より「木材の安定供給体制はどのように構築すればよいか」と題し、ご講演をいただきました。

◆平成26年度事業報告

●図書の発行配布等による情報提供

●調査研究の実施

- ・先進地視察 高知県大豊町「高知おおとよ製材」ほか
- ・役員研修会 津市「三重県水源林条例制定に向けた動き」について、「WOOD JOB! 神去な あなあ日常記念館」視察

●講演会の開催

演題：みえの森林資源を成長産業につなげるために
講師：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
相川高信 主任研究員

●森林座談会の開催

テーマ：県民全体で森林を支える社会づくりのために

●森林講座の開催

テーマ：新しい架線集材技術で林業の未来を拓く
・「大台町におけるH型架線集材の実績と展望」
(株)フォレストファイターズ 井澤俊彦部長
・「大型タワーヤードを使用した搬出間伐の効率化」
(株)前田商行 前田章博代表取締役社長

●林政活動

- ・知事との森林トークへの出席
- ・全国林業普及研修大会への出席と県選出国會議員への要望活動

◆平成27年度事業計画

- 印刷物の発行配布等による情報提供
- 研究・調査等の実施
- 役員研修会の実施
- 講演会の開催
- 森林座談会の開催
- 森林講座の開催
- 会員加入拡大の展開
- 関係団体との連携及び各種大会・会議等への参加

◆平成26年度決算書及び27年度予算書

科 目	平成26年度決算額	平成27年度予算額
I 収入の部		
1 会費	3,782,000	3,796,000
2 雑収入	92,828	98,474
3 前期繰越額	1,030,261	705,526
収入合計	4,905,089	4,600,000
II 支出の部		
1 事務費	672,920	730,000
2 会議費	121,255	130,000
3 事業費	2,420,263	2,730,000
4 負担金等	985,125	980,000
5 予備費	0	30,000
支出合計	4,199,563	4,600,000

◆役員の選任

会 長	西場 信行 (三重県議会議員)
副会長	青木 民夫 (いせしま森林組合)
	黄瀬 稔 (三重県木材組合連合会)
専務理事	山本 直佐 (三重県森林協会)
理 事	中川 賢一 (鈴鹿森林組合)
	安東 幹雄 (菰野生産森林組合)
	赤野 利彦 (中勢森林組合)
	川井 春生 (白山町林業研究会)
	上田 和久 (松阪飯南森林組合)
	山添 裕康 (大紀森林組合)
	福田 正俊 (伊賀森林組合)
	辻本 林義 (伊賀プレカット協同組合)
	土井 恭平 (森林組合おわせ)
	大西 克明 (森林組合おわせ)
	朝尾 高明 (三重くまの森林組合)
	芝 嘉宏 (三重くまの森林組合)
	前田 芳宏 (三重県農林水産部)
監 事	辻岡 光雄 (中勢森林組合)
	細瀬 淳輔 (宮川森林組合)
	梅田 利幸 (大紀森林組合)

平成27年度も引き続きよろしくお願いします。

みえの森林ツアーを開催しました

三重県森林組合連合会

三重県森林組合連合会では、平成27年7月23日及び10月7日に「みえの森林ツアー」を開催しました。

森林ツアーでは、木造住宅に使われる木材が、「どのようにして育ち、伐採され、販売・流通しているか」を、実際の伐採や搬出中の現場、及び県内各地の木材市場で開催される市売りを見学することによって、多くの方々に実感していただくことを目的に開催いたしました。

7月23日（第1回）は、美杉木材市場の市売りを見学し、午後から、地元の中勢森林組合が施工している、津市美杉町上多気地内の山林作業現場の見学をしました。



今後こういった林業・木材産業等の活動を知っていただくための企画を行う際は、今回実施しきれなかった、手入れの不足している山林と、実際に起こった災害現場の視察をとおして、森林整備の重要性について理解していただくとともに、木材加工施設やバイオマス発電所など県内の需要先の見学、木造住宅の建前・新築見学会などを通じ、より多くの方に、木材の積極的な利用、木材販路の開拓が、喫緊の課題であることを少しでも理解していただき、ご支援がいただけるよう取り組んでいきたいと思えます。



また、10月7日（第4回。予定していた第2回、第3回は台風のため中止）は、ウッドピア松阪市売協同組合の木材まつりを見学し、午後からは、地元の松阪飯南森林組合が施工している、松阪市飯高町青田地内の山林作業現場の見学をしました。

林業・木材産業になじみのない方の参加がほとんどで、「木材価格はこんなに安いのか」、「木を搬出するのにこんなに労力と費用が掛かるとは知らなかった」、「住宅の材料がここまで機械化され、製造されているとは知らなかった」など様々な意見があり、林業・木材産業の一端について理解していただくという目的は、達成できたと思います。

しかし、こういった意見が出るということは、林業・木材産業の抱える問題が、一般の方に対して、いかに浸透していないかという証左であり、一般の方に広く理解し、かつ支援いただくための情報発信に力を入れていく必要があることを痛感したツアーとなりました。

山と海をつなぐ植樹祭 を開催します！

記念植樹や木工体験、木のおもちゃなどを通じて、森林や木を身近に感じていただき、三重の森林や森林づくり活動について関心を持っていただける楽しいイベントです。

日時：平成28年1月24日（日）

（雨天順延31日（日））

10時～14時30分

場所：度会郡南伊勢町小方竈20番地
さくら保育園前グラウンド敷地内

料金：無料（一部有料）

主催：南伊勢町・公益社団法人 三重県緑化推進協会・三重県（農林水産部 みどり共生推進課）

問い合わせ先：059-224-2513
（みどり共生推進課）

頑張ってます ～地元熊野で頑張っています～

三重くまの森林組合 山本 祐二さん

林業・木材産業に携わりながら、地域で頑張っている方を紹介する「頑張ってます」は、三重くまの森林組合の山本 祐二さん（27歳）が登場します。山本さんは、鈴鹿市で行われる「みえチェーンソー技術競技大会」に出場します。



山本 祐二さん（紀宝町の現場にて）

◆森林組合に就職して

地元の熊野市出身で高校卒業後、津市久居の自衛隊に所属していましたが、2年間勤めた後、地元に戻るようになりました。地元に戻った後、実家の製材所を手伝っていましたが、21歳の時に合併前の熊野市森林組合に就職して、現在で6年が経ちました。森林組合に就職してからは、主に保育間伐を行う班に配属されていましたが、今年から搬出間伐を中心とした班に移りました。現在の仕事は、組合員さんから受託された現場の搬出間伐が中心で、チェーンソーによる伐採・造材、架線集材機へのとんがけ、グッラブルによる巻き立てや積み込みなどの仕事を班の職員が交代で行っています。

◆6年が経過して

就職して最初のころは仕事の段取りもわからず、指示されたことをやるだけでしたが、だんだんと自分で考えて、進んで動くことができるようになってから、仕事の楽しさが感じられるようになりました。実家は製材所ですが、森林組合に入るまでチェーンソーを使って木を伐採したことはありませんで



した。チェーンソーの取り扱いは、だいぶんと慣れてきましたが、先輩のような思った方向への的確な伐倒技術までには、まだまだ達していません。搬出に関しては、集材機の架線をどの方向に張るのか、どの木を元柱・先柱にするかなどは、さまざまな現場条件により判断する必要があるので、少しでも場数を踏んで覚えていきたいと思っています。また、現場で搬出された木材が、今の相場ではどれくらいの価値があるのか、どこに出荷するのが有利なのかなど、少しでも売上が上がるように、常に考えながら仕事をしたいと思っています。

◆大会に向けて

今年は、班長からの指名で、「みえチェーンソー技術競技大会」に出場します。昨年の大会では、三重くまの森林組合は3位でしたので、ひとつでも上の順位を目指して頑張ります。

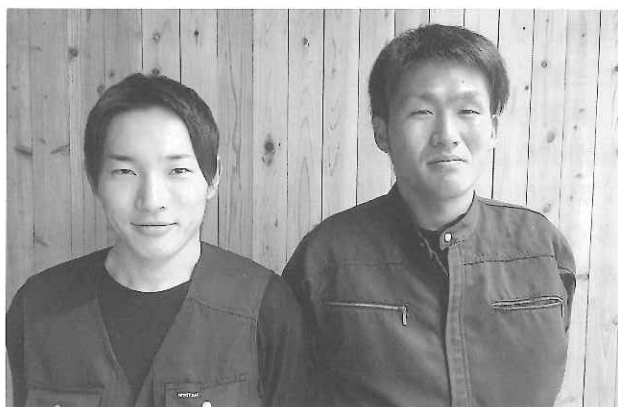


この人に聞く ～第59回・大紀森林組合 西 晋矢さん・村田 拓也さん～

聞き手：伊勢農林水産事務所 林業普及指導員 鎌 田 康 宏

今回登場いただくのは、大紀森林組合の西さん（21歳）と村田さん（19歳）です。

県では、林業大学校等の検討を行っていることもあり、高校を卒業した後、大紀森林組合へ就業したお二人に就業のきっかけや、これまでの思いなどについて、お話をいただきました。



（左：村田さん 右：西さん）

◆はじめに

お二人とも、大紀町出身で森林組合での担当作業は、植栽や下刈り、切捨間伐など保育中心です。

お二人の採用年度は、西さんが平成23年度、村田さんが平成26年度です。

Q 林業の仕事を選んだ理由は何ですか？

A （西さん）

正直、学生時代は全く林業に関心がありませんでした。地元には、たくさんの山があり、中学時代に大紀森林組合の体験学習を経験していたことで、こうした仕事があることは知っていました。

この仕事を選んだ大きなきっかけとしては、高校生の時に、森林インストラクターであった父親から「林業の仕事をしてみてはどうか」の一言でありました。

その後、自ら大紀森林組合に足を運び、実際に働いている職員の方々に仕事の内容を伺いました。その時に職員の方から「仕事楽しいよ」と言われたことや、そもそも自然の中で体を動かすことが好きなこともあって、この仕事に就くことを決めました。

（村田さん）

林業がどのような仕事なのか詳しくは知りません

でしたが、身近にたくさんの山があり、自分も体を動かすことが好きで、そうした仕事をしたいと考えており、地元に在るこの森林組合を選びました。

Q 就職してから林業の仕事や森林に対する心境などに変化はありましたか？

A （西さん）

この仕事に就いて、山の中へ入って真っ先に感じたのは、手入れが進んでいる森林とそうでない森林が、これほど違うものなのか、それまで、森林には木が生えていれば、それで十分であると考えていましたので、正直、衝撃を受けました。

（村田さん）

もともと、林業の仕事がどのようなものかは理解していませんでしたが、いざ働いてみると想像以上に体力面で厳しいものでした。

それを補うほど、この仕事には達成感があり、やりがいがある仕事でした。

Q 就職して1年目はどうでしたか？

A （西さん）

まず、作業をする前には、現場まで山を歩いて行く必要がありますが、これがとても大変でありました。体力には自信がありましたが、平地を歩くのとは違い、先輩方の後をついて行くのも一苦労でした。

間伐作業では、先輩方がチェーンソーを使って上手に伐っているのを見て、自分に出来るのか心配になり、悩んだこともありました。

（村田さん）

正直、体力面で自信を無くし、このまま続けられるか心配になりました。

そんな中、先輩方の親切な指導やアドバイスもあり、今も続けられています。

（お二人とも、体力面で1年目はとても大変だったようですが、今では何の不安もないそうです。）

Q 仕事が楽しく感じる時は、どんな時ですか？

A （西さん）

一つの作業を任せられ、それが上手く進んだときです。

それと、木を伐採することが何よりも楽しく、か

かり木にならないよう方向を見定め、自分が思った方向に木が倒れたときは、めちゃくちゃ楽しく感じます。

(村田さん)

何よりも、この仕事には達成感があって、そう思ったところが楽しく感じます。

そのほか、自分の班は同年代が多く、仕事の合間には和気あいあいとした楽しい雰囲気があるところ です。

Q 仕事で辛いところは、ありますか？

A (西さん)

……。辛いことは無いです。仕事なので、辛いと思ったことはありません。

林業の仕事は「辛い」とよく聞きますが、別の仕事をしている人たちの話を聞くと、それぞれに辛さがあり、必ずしも林業に限ったことではないと思っています。

(村田さん)

仕事に、やりがいを持っていますので、辛いと思ったことはありません。西さんと同じく仕事をしていれば、多少のことは当然だと思っています。

間伐中の西さん



選木中の村田さん

Q 色んな研修に参加しての感想を聞かせてください。

A (西さん)

研修を受けて良かったことは、知識や技術が身に付くほか、他の事業体の研修生と交流が深まったことも良かったと思います。

今でもプライベートでの交流が続いており、会えば仕事の話など情報交換を行って、お互いを刺激しています。

(村田さん)

作業現場で教わるのが少ない森林・林業の基礎知識や経験したことのない作業についても学ぶことができて良かったと思います。

(西さん)

研修では知らない情報が得られ、貴重な経験にな

りますし、学んだことを、すぐ現場で実践することもあります。

森林作業道に関しては、林業作業士研修の3年目に行われますが、就職して間もなく森林作業道の作設に関わる方もいるので、早い段階で学べる機会がたくさんあって良いと思います。

Q この仕事に対する友達などの反応はどうですか？

A (西さん)

自分の仕事を友達に話すと「ウッジョブやろ～」って言われます。

そのほか、友達から必ず言われるのが、「ノコギリで木を伐っている」ということです。それだけ、同世代の人たちが、林業の仕事を理解していないのだと感じます。

林業の作業内容などをリアリティーに紹介する映像があれば、もっと理解されるかと思っています。

県で作った森林・林業のPR動画は、SNS等で多くの友達に紹介しました。高性能林業機械での作業シーンを見て、「こんな機械で作業しているんだ！」と随分驚いていました。

いまだに、昔のイメージが根付いていると思います。

(村田さん)

そもそも、林業のイメージを持っている人は少なく、映画のウッジョブをイメージする人が多いです。

Q 就業を控えている世代へ一言メッセージをお願いします！

A (西さん)

この仕事が、他の仕事と比べて特別に大変なものとは思いません。

危険な仕事ではありますが、きちんとルールを守って作業をすれば、それ程、危ない事ありませんし、とにかく楽しい仕事です。

(村田さん)

今の林業をイメージ出来ない人も多くいると思いますので、実際に林業の仕事を体験するなどして、理解を深めてほしいと思います。

Q 最後に、どんな林業マンを目指したいですか？

A (西さん)

採算を合わすことが難しい現場でも、しっかりと結果を残せるようにになりたいです。

(村田さん)

任されたことは全てやりこなし、みんなから信頼が得られる人材になりたいです。

<ありがとうございました。>

新植地における移動組立式囲い罠を用いたニホンジカの捕獲試験

林業研究所 福本浩士

1. はじめに

戦後に拡大造林されたスギ・ヒノキ人工林が伐期を迎えています。再造林を行ってもニホンジカ（以下、シカ）による植栽苗木の被害のため（写真－1）、成林が困難な状況にあります。これまでも侵入防止柵を新植地の周囲に設置してシカの侵入を防ぐ努力をしてきましたが、シカ密度が高い地域ではシカに何度も侵入され、被害が減る傾向にはありません。



写真－1 シカに被害されたヒノキの苗木

これからは、侵入防止柵を設置して植栽苗木を「守る」だけでなく、新植地を餌場としているシカ加害個体を積極的に捕獲して「攻める」ことが重要になってきます。林業研究所では、新植地においてシカを効率的に捕獲する試験を開始しました。今回は、移動組立式囲い罠を用いた捕獲試験を紹介します。

2. 囲い罠の設置場所を選定する

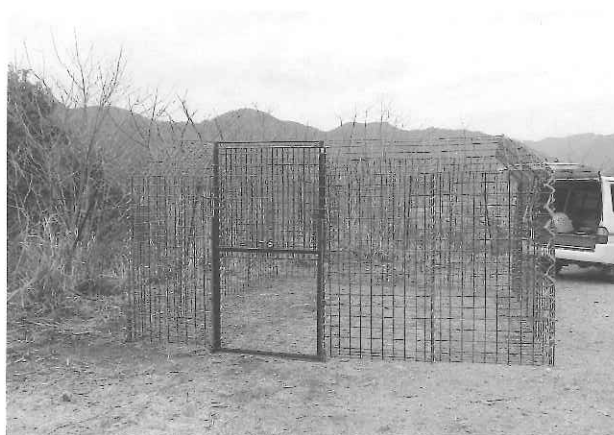
囲い罠を設置する際、その設置場所の選定が捕獲効率をあげるために重要です。シカの通り道（獣道）、シカの糞、足跡を現地を確認して、どこからシカがやってきて、夜間どこに滞在しているかを見極める必要があります。市販の赤外線センサーカメラを設

置して出没状況の確認や、夜間にライトセンサスを実施してシカの出没場所の特定を行うと、捕獲効率の良い設置場所（写真－2）を選定することが可能となります。



写真－2 シカの出没頻度が高い場所

囲い罠や箱罠を設置する場所は、平坦な場所を選びましょう。また、罠の搬入や維持管理のしやすさを考慮すると、設置場所周辺まで軽トラック等の通行が可能な場所が望ましいでしょう。例えば、新植地に開設された作業道終点付近に存在する広場などが良いでしょう（写真－3）。



写真－3 新植地内に開設された作業道横の土場に設置した移動組立式囲い罠（4 m×4 m×2 m）

3. シカを餌で誘引する

設置場所が決まったら、次はシカを誘引することに取り組みます。シカを誘引可能な餌として、ハイキューブ（乾燥牧草をサイコロ状に固めたもの）（写

真-4)、米ぬか、岩塩等が知られていますが、シカだけを誘引する場合、ヘイキューブが効果的であることが知られています。林業研究所では、ヘイキューブの誘引力を基準として、安価に入手でき、県内でも誘引力のある餌の検討を始めました。今回、シイタケを栽培する際に使用した廃菌床ブロック(写真-5)を野外に放置した場所にシカが集まり、菌床ブロックに生えたきのこを食べているという情報があったため、ヘイキューブと同様に誘引餌として利用が可能かどうかを検討しました。



写真-4 シカに対する誘引力が強いヘイキューブ



写真-5 シイタケ栽培用の廃菌床ブロック

2015年3月、大紀町地内の新植地に移動組立式囲い罠を設置し、同年5月21日にシカの出没状況を把握するための赤外線センサーカメラを3基設置しました。5月29日にヘイキューブを囲い罠外側の入口付近に4kg、囲い罠内側奥に2kgずつを2カ所に設置しました。また、6月10日からはヘイキューブに替えて、シイタケ廃菌床ブロックを囲い罠外側入り口付近に4個、囲い罠内側中央部に4個、内側奥に4個設置しました。図-1にヘイキューブと廃菌床ブロックを給餌した場合のシカの出没状況および囲い罠への侵入状況を示します。ヘイキ

ューブ給餌前、シカはおもに夜間に出没しましたが、その頻度は低いことが分かりました。ヘイキューブ給餌後は夜間の出没も多くなり、囲い罠への侵入も確認できました。一方、餌の種類をヘイキューブから廃菌床ブロックに変更したところ、シカの出没頻度も減少し、囲い罠への侵入も確認されませんでした。大紀町では廃菌床ブロックによる誘引は困難であると思われます。

一般的にヘイキューブによるシカの誘引力はシカの餌資源が豊富になる夏期には餌資源が少ない冬期に比べて低下すると言われています。今回の試験において、試験地周囲の草本類が繁茂する6月でもヘイキューブの高い誘引効果を確認できました。したがって大紀町の新植地では、1年を通じてヘイキューブによりシカを誘引することが可能であると考えられます。

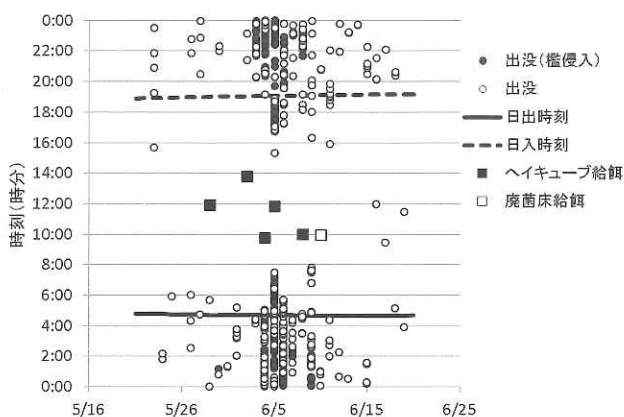


図-1 ヘイキューブおよび廃菌床ブロック給餌時におけるシカの出没及び囲い罠侵入状況

4. 遠隔監視・遠隔操作でシカを捕獲する

シカを誘引し、警戒心を解くことができれば、次は捕獲に移ります。近年、ICTを利用した様々なシカの捕獲システムが開発されています。一般的には携帯電話回線を利用して、インターネットで監視・捕獲するシステムが主流となっています。しかしながら、農地と異なり森林では携帯電話が入らない地域が多く、これらのシステムの利用が困難です。

そこで、林業研究所では赤外線無線カメラを用いて監視を行い、無線でゲートを閉鎖できるシステムを構築しました。これまでに、従来のワイヤートリガー方式により1回の捕獲行為でメス成獣2頭、当年仔1頭、無線を利用した遠隔監視・遠隔操作により3回の捕獲行為でメス成獣1頭、当年仔2頭を捕獲しました（うち、1回の捕獲行為ではシカは出沒しませんでした）。捕獲後のシカ出沒状況を赤外線センサーカメラで確認したところ、1頭だけしか撮影されていないので、試験地のシカ集団を全頭捕獲することも可能となるでしょう。

県内木材市場市況の概況(10月)

円/m³

区分		規 格			鈴 鹿	松 阪	伊 賀	尾 鷲	熊 野
素 材	スギ	14~18cm	3m	並	10,000~13,000	7,000~13,000	10,000~15,000	8,000~13,000	10,000~14,000
		20~22cm	4m	並	10,000~12,000	10,000~13,000	12,000~14,000	10,000~12,000	10,000~13,000
		24~28cm	4m	並	12,000~13,000	10,000~14,000	13,000~15,000	10,000~13,000	12,000~15,000
		16~18cm	6m	並	17,000	10,000~16,000	15,000	12,000~15,000	
	ヒノキ	14~18cm	3m	並	13,000~17,000	10,000~17,000	11,000~15,000	10,000~15,000	10,000~17,000
		20~22cm	4m	並	16,000~17,000	13,000~17,000	13,000~14,000		12,000~18,000
		24cm上	4m	並	15,000~16,000	12,000~20,000	13,000~15,000		15,000~20,000
		16~18cm	6m	並	30,000	20,000~30,000	20,000~25,000		
製 品	スギ	12×12cm	3m	特 1	50,000~55,000	55,000~60,000	45,000~55,000		
		4.5×12cm	4m	特 1 上小		55,000~70,000	55,000~70,000		
	ヒノキ	12×12cm	3m	特 1	60,000	50,000~70,000	60,000~75,000		
		12×12cm	6m	特 1	100,000~120,000	100,000~130,000	80,000~100,000		
		4.5×12cm	4m	特 1 上小	100,000~150,000	80,000~120,000	80,000~150,000		

(注) 積込料、取扱手数料、消費税は含まれていません。

森林・林業関係行事予定表

平成27年11月			
期 日	行 事 の 場 所 等	行 事 の 内 容	問 い 合 せ 先
11月22日(日)	三重県民の森	ダンボールアート&パステルアート	三重県民の森 059-394-2350
11月22日(日)	三重県上野森林公園	森っこくらぶ③「森で作ろう」	三重県上野森林公園 0595-22-2150
11月22日(日)	トヨタ三重宮川山林	間伐実習イベント(みやがわ木の駅プロジェクト)	松阪森林・林業室 0598-50-0568
平成27年12月			
期 日	行 事 の 場 所 等	行 事 の 内 容	問 い 合 せ 先
12月2日(水) ~12月3日(木)	メッセウイングみえ	県産材需要拡大のための講演会及び意見交換会	森林・林業経営課 059-224-2565
12月6日(日)	三重県上野森林公園	ミニクリスマスツリー作り	三重県上野森林公園 0595-22-2150
12月20日(日)	祓川自然環境保全地域	祓川生態系維持回復事業(導入型コイの捕獲等)	みどり共生推進課 059-224-2578

公益財団法人 三重県農林水産支援センター

“農業をやりたい”
“林業に従事したい”
“漁業をやりたい”

〒515-2316 三重県松阪市嬉野川北町530
公益財団法人三重県農林水産支援センター
担い手育成支援課

電 話 0598-48-1226
FAX 0598-42-8221

そんなあなたをサポートします。

<http://www.aff-shien-mie.or.jp>

林業用苗木の生産・販売

ー 緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 政 伸

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな
「三重の木」認証材で家を建てよう！

「三重の木」利用推進協議会
TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 黄 瀬 稔

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

守ろう地球の環境 ー 緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104 (林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い
森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 三重県森林協会

TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

あなたとつくる緑の未来、さわやかな緑の環境づくりをめざす

地球温暖化防止
緑の募金で

CO₂ ダイエット!



公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100
FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

突然に起こる災害!

だいじな山のうしろだて 緑の山に愛の手を



入って安心



森 林 保 険

お申込みは...



森林組合・三重県森林組合連合会